

はじめに

この本を手にとってください、ありがとうございます。あっ、書棚に戻さないでください。これも何かの縁ですよね……

え、この始まり方、すでにご存じなのですか。どうせ「ロシア語を始めませんか」って続くんだろうと、そうお考えなのですね。いいえ、それはちょっと違います。

ウクライナ語を始めませんか。

これは少々変わった語学書です。拙著『ニューエクスプレスプラス ロシア語』（もちろん白水社）の本文および練習問題（一部）をすべてウクライナ語に訳して、その違いに注目しながらウクライナ語を学習していこうという趣向なのです。自分でいうのもなんですが、こんな語学書はこれまでになかったのではないしょうか。

ウクライナ語はロシア語と非常に近い言語です。系統はどちらもインド・ヨーロッパ語族スラブ語派東スラブ語群ですので、文法はよく似ていますし、何より同じキリル文字を使っていますから、ロシア語学習者にとってウクライナ語はとても親しみやすい言語といえます。

もちろん違いはいろいろあります。同じキリル文字とはいえ、ウクライナ語にはロシア語で使われない文字もありますし、同じ形なのに発音が違うこともあります。ロシア語からは類推が利かない語彙も少なくありません。油断がならないのです。

実をいえば私自身、この語学書を書きながら何度も壁にぶつかりました。そもそもウクライナ語向けに書いた本文ではありませんので、その説明も補足することが多くて大変でした。しかしそれだけではありません。

ウクライナ語は難しい言語で、ソビエト時代と今では違いますし、地域によっても差があります。しかも私がロシア語教師なので、作文するとウクライナ語

がどうしても「ロシア風」になってしまうのです。どうも情けない著者です。

そんなとき全面的に助けてくださったのがイーホル・ダツェンコさんです。ダツェンコさんは拙著『初級ウクライナ語文法』（こちらは三修社）に続いて協力していただけていますが、私の間違いを一つ一つ丁寧に訂正してくださいました。その指摘は常に的確で、それに引き換え私の間違いときたら、本当に赤面してしまうほど間抜けなものばかりです。

しかしです。私が間違える箇所こそ、ロシア語の次にウクライナ語を学ぼうという人には、大切なポイントなのではないでしょうか。いや、そうだ。そうに違いない。

ということで、説明は私自身が間違いやすい事項を中心にまとめました。本書は私の赤っ恥の記録です。

本文の主人公は、『ニューエクスプレスプラス ロシア語』と同じつばさ君です。その他の登場人物は名前を変更し、地名や言語名も変えましたが、それでも展開する会話はロシア語のときと基本的には同じなのですから、奇妙なデジャビュ（既視感）を覚えますね。しかし呑気なつばさ君のことですから、そんなことは気にせず、ウクライナ語の学習をどんどん進めていきます。イラストの藤田ひおこさんは、若い頃の私をイメージしてつばさ君を描いてくださったそうです。確かに私も呑気でしたね。

系統的に、網羅的に学びたい方には、他の教材をお勧めします。でも、そうじゃなくて、これまで学んできたロシア語を通してウクライナ語に挑戦したい学習者には、ちょっと面白い本になったのではないのでしょうか。

それではさっそく始めましょう。